

大項目	Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(1) 自己収入拡大への取組							
【年度計画】								
機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。								
担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課			事業責任者	事務局長 山下登			
【実績・成果】								
展示事業等収入については、下表のとおり1,979,222千円となり、目標を上回った。								
		目標値	元年度					
展示事業等収入		1,538,510千円	1,979,222千円（暫定値）					
※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。								
※受託研究・受託事業を除く。								
東京国立博物館と文化財活用センターの共同ファンドレイジング事業である「<冬木小袖>修理プロジェクト」を2年1月から開始。「東京国立博物館所属 重要文化財 小袖 白綾地秋草模様 尾形光琳筆 江戸時代・18世紀」の修理費等1,500万円を個人や企業からの寄附金により実施を目指すプロジェクト。								
元年度中に寄附金3,271千円を獲得。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
自己収入額 (展示事業等収入)	1,979,222千円 (暫定値)	1,538,510千円	A		1,817,119	1,714,563	2,260,173	1,917,262
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：A		計画どおり取り組みを実施しており、目標を上回ることができた。						
【中期計画記載事項】								
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、(略)競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】		【判定根拠、課題と対応】						
評価：A		計画どおり取り組みを実施しており、目標を上回ることができた。						

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(2) 外部資金の獲得							
【年度計画】								
機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。								
担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長 山下登					
【実績・成果】								
寄附金については、下表のとおり 807,636 千円となり、目標値を上回った。								
	目標値	元年度						
寄附金	439,574 千円	807,636千円（暫定値）						
※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
寄付金等額 （その他寄付金等）	807,636千円 （暫定値）	439,574千円	A		795,744	753,812	732,210	827,718
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。							
【中期計画記載事項】								
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、（中略）競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長 竹之内勝典					
【実績・成果】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を様々な年齢層に向けて開催した。 ② ・今年度も、会場のユニークベニュー利用、ロケ地撮影、茶室、講堂等の外部への貸し出しを積極的に行った。 ・施設貸出については、ウェブサイトによる周知とともに、リピーターを増やすべく会場の下見や当日利用時などにきめ細やかなサービスを心がけるなど、利用者の満足度向上に努めた。 ・ユニークベニュー利用による収入は、18件74,763千円であった(30年度実績14件51,288千円)。 ・ロケ地利用による収入は、286件18,558千円であった(30年度実績298件25,687千円)。 ③元年度も入館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートや寄席、野外シネマ、ビアガーデンなど26件のイベントを実施し、約27,500人の参加があった。また国際交流事業として「留学生の日」を実施し無料観覧(総合文化展のみ)のほか、茶会、英語ガイド、ガイドツアーなどを行い、444人の参加があった。								
【補足事項】 ② ・施設の有料貸出について、表慶館の長期貸出など積極的な取り組みにより、ユニークベニュー利用の収入が大幅に増加した(30年度比+23,475千円)。 ・30年度にロケ地利用を実施した映画の公開に合わせて雑誌の特集が組まれたタイミングに、当館のロケ地利用紹介の広告を出稿し、映像制作関係者や一般の方々に向けて当館のロケ地利用の認知を上げることができた。								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年 変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数	674件	-	-		652	747	866	781
うち有償利用件数	451件	-	-		434	529	581	485
【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 バリエーションに富んだ当館の施設や敷地を活用すべく積極的に受け入れを行ったことにより、大幅な収益増とすることができた。また、リピーター確保のため、外部委託業者とともにきめ細かなサービスを心掛けた。引き続き貴重な収入源である施設の有料貸出推進に向けて努力する。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 保有資産である各種建物や敷地の積極的な貸出を行ったことにより、ユニークベニュー利用について30年度以上の収入と実績を上げることができた。元年度後半からは表慶館をはじめ、各施設における館内事業により、外部貸出が可能な施設や期間が大幅に減少したため、施設利用希望者の要望に応えられない場面が増えている。引き続き利用可能な施設や時間帯の外部活用を図る。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務課	事業責任者	課長 西尾佐枝子					
【実績・成果】 (博物館4施設) ①記念講演会、土曜講座、夏期講座及びトークイベント等を開催した。 ②外部サイトにロケーション撮影の案内を掲載した他、明治古都館・グランドロビーなどの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内(利用時間、料金等)を当館ホームページに掲載した。 ③従前の「京都・らくご博物館」の他に、留学生を対象に日本文化への理解を深めるため、「留学生の日」を設け、特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」の割引観覧やグッズの無料配布を実施した。また、大学・企業・近隣地域等と連携し、講堂や庭園でイベントを開催した。								
【補足事項】 ①講座・講演会等 ・記念講演会、土曜講座、夏期講座等については(処理番号1311B1)参照 ・「キャンパスメンバーズ向け講演会」計2回 場所：平成知新館講堂 参加人数：203人(処理番号1313B) ・「トークイベント いまひとつの『風神雷神』 原田マハと京博の研究者たち」 場所：平成知新館講堂 参加人数：180人 ②外部への施設貸出 ・ブランド展示会、茶会、講演会、野外イベント等の会場として、またロケーション撮影スポットとして、各施設の貸出を実施した。 ・ICOM京都大会期間中、オフサイトミーティングや閉会式等のイベント会場として各施設を提供した。 ③コンサート等のイベント ・「京都・らくご博物館」計3回 場所：平成知新館講堂 参加者数：405人 ・「トラりんといっしょ☆発見!化石ツアー」 場所：平成知新館 参加者数：60人 ・明治古都館を特別に公開した。(9月1日～6日) ・「十二単お服上げの再現—現代につながる王朝の美」 場所：平成知新館講堂 参加人数：754人 ・「留学生の日」 場所：平成知新館 参加者数：38人 ・「新春能」 場所：平成知新館講堂 参加人数：393人 ・「芸舞妓 春の舞」 場所：平成知新館講堂 参加人数：365人								
新春能								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数	196件	-	-		112	105	122	165
うち有償利用件数	164件	-	-		104	93	86	143
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 明治古都館や平成知新館グランドロビーの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内を当館ウェブサイトや外部ロケ地ポータルサイトに掲載し、外部に対して積極的に広報を行った。問い合わせ、利用件数ともに増加しており、一定の広報効果とMICE開催地としての認知度の上昇があったと考えられる。 入館者拡大のために、無関心層を取り込むための新たなイベントを試みた。元年度は特に、平常展の集客を図るため、講堂・庭園等において展覧会や文化財に関連したイベントを実施した。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 施設貸出にかかる広報・運営に注力するとともに、入館者拡大のための新規イベントを実施した。その結果、中期計画通りに順調に成果を上げている。							



新春能

中項目	1. 自己収入拡大への取組																												
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進																												
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。																													
担当部課	総務課	事業責任者	課長 臣守常勝																										
【実績・成果】 (博物館4施設) ①公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 ②小学生を対象に世界遺産学習を実施した。 ③地元自治体等と連携し、入館者の拡大を目的とした各種イベントを実施した。また、インバウンド対策として、「英語落語in奈良博」を9月1日に実施し、148人の参加があった。																													
【補足事項】 ①講座・講演会 公開講座(13回)、親子講座(1回)、サンデートーク(11回)、正倉院展ボランティア解説(89回)、特別鑑賞会(6回)、文化財保存修理所特別公開(3回)等 ③イベントの実施 ・講堂：「改元記念講演会『ようこそ新元号！～これまでの奈良博、これからの奈良博～』」、「夏休み親子新聞教室ではがき新聞づくり」、「英語落語in奈良博」、「御即位記念 第71回正倉院展親子鑑賞会」、「お水取り講話と現地解説の会」、「お水取り展鑑賞とお松明」 ・地下回廊：「オリジナル絵巻を作ろう」、「抹茶体験」、「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」、「チョコパンケーキを作って食べよう」 ・会議室：「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」 ・仏教美術資料研究センター：「FM802 Daiwa Sakura Aid FOR THE GENERATION 番組公開収録」、「新元号制定記念コンサート」、「FM COCOLO Daiwa Sakura Aid GO GO ゴンチチ 番組公開収録」、「仏教美術資料研究センターの一般開放」 ・文化財保存修理所：「文化財保存修理所特別公開」 ・展示室：「仏像供養(年4回)」 ・庭園・茶室：「春の庭園散策ツアー」、「Daiwa Sakura Aid Concert」、「秋の庭園開放」、「おん祭茶会」 ・敷地内：「トラりんぐリーディング」、「MASERATI MEETS NARA 2019」、「奈良博ブライダルショー世界に一つだけ、あなたのWedding」等 ○会場提供 ・講堂：「4機関協定締結記念シンポジウム『奈良とは何か?』」、「奈良シニア大学講義」、「京都府立大学文学部歴史学科新入生合宿研修」、「仏教芸術学会シンポジウム」、「近畿美術館博物館・美大研修」等 ・仏教美術資料研究センター：「行基生誕1351年記念シンポジウム」、「ブライダル撮影、ブライダルフェア」等 ・庭園・茶室：「珠光茶会」等各種茶会、雑誌撮影、ブライダル撮影等 ・敷地内：「なら燈花会」、「第3回春日野音楽祭まちなかステージ」、「春日若宮おん祭」等																													
<table border="1"> <tr> <td>【定量的評価】項目</td> <td>元年度実績</td> <td>目標値</td> <td>評定</td> <td rowspan="2">経年変化</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>施設の有効利用件数</td> <td>166件</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>117</td> <td>113</td> <td>111</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>うち有償利用件数</td> <td>84件</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>33</td> <td>21</td> <td>19</td> <td>18</td> </tr> </table>					【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30	施設の有効利用件数	166件	-	-	117	113	111	112	うち有償利用件数	84件	-	-	33	21	19	18
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30																					
施設の有効利用件数	166件	-	-		117	113	111	112																					
うち有償利用件数	84件	-	-	33	21	19	18																						
【年度計画に対する総合評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 それぞれの展覧会の内容に即したイベントを多数行うことができた。また、インバウンドプロモーションとして、関西文化の日プラスの日に「英語落語 in 奈良博」を実施し、全内容英語のみとし、外国人観光客を多数集客することができた。																											
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。																													
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 コンサート会場、ブライダルファッションショー会場、マセラティユーザー展示会場及び大学講義会場として施設を利用するなど、地方自治体と連携したイベントを実施することで博物館の認知度を向上及び自己収入を獲得することができ、順調に施設を活用できた。																											



奈良博ブライダルショー世界に一つだけ、あなたのWedding

中項目	1. 自己収入拡大への取組								
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進								
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。									
担当部課	交流課 総務課	事業責任者	課長 山野孝 課長 國谷勝伸						
【実績・成果】 (博物館4施設) ① 特別展およびトピック展等に関する講演会・講座等を開催した。 ・特別展関連講演会 11回 ・特集展示関連講演会 4回 ②ミュージアムホールおよび茶室、研修室等の外部団体への貸出を積極的に行った。 ③落語家による「みゅーじあむ寄席」の開催や、ミュージアムコンサート等を行い、施設の有効利用を図った。 また、これまで有償貸与の対象ではなかったエントランスホールの貸出について制度化し、10月に貸出を行った。									
【補足事項】 ①展示関連の講演会等の開催 1) 特別展及び文化交流展(特集展示) 関連イベント ・特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」記念講演会 「鎌倉彫刻の巨匠運慶・快慶とその次世代の仏師たち」 (4月27日 参加者数:120人) ・特集展示「文化財よ、永遠に」関連講演会『修理、果てしなき挑戦』 (9月28日 参加者数:80人) ②外部団体への施設の貸出 ・10月20日 太宰府市民茶会(太宰府茶道文化連盟) ・11月15日 ふくおか文化ボランティアフォーラム(NPO法人文化ボランティアとびうめの会) ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたイベントの開催 「～山鹿の伝統来れり～山鹿の灯り」の様子 ・ミュージアムコンサート「オカリナ×ギター 秋のアンサンブル」(9月14日 参加者数:330人) ・みゅーじあむ寄席(9月22日 参加者数:256人) ・「～山鹿の伝統来れり～山鹿の灯」(10月26日 参加者数:350人)									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数		349件	-	-		392	355	280	328
うち有償利用件数		77件	-	-		118	116	96	75
【年度計画に対する総合評価】 評価: B			【判定根拠、課題と対応】 会議・昼食利用のための会議室の貸与及び講演会・コンサートのためのミュージアムホールの貸与など、有効利用の推進を順調に履行できた。						
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価: B			【判定根拠、課題と対応】 会議室に関しては会議や昼食利用等の貸与を定期的に行い、有効利用の推進を順調に履行できた。また、エントランスホールの有償貸与について制度化し、体制を整えた。2年度以降も引き続きコンサートや講演会等を積極的に受入れることで、施設の有効利用の推進に取り組む。						



中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。								
担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長 川島美奈子					
【実績・成果】 ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを元年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に当研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。 ・当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関へ施設の有償貸付を実施した。								
【補足事項】 ・第53回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」 ・有償貸付例：「文化財建造物保存修理研究会 研究発表会」 (11月9日、文化財建造物保存修理研究会)								
オープンレクチャーの様子								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年 変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数	145件	-	-		186	185	200	198
うち有償利用件数	7件	-	-		7	9	10	13
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 施設の有効利用の促進を図るべく、当研究所の会議室及びセミナー室の有償貸付を実施し、施設利用の拡大を図ることができた。なお、外部機関への有償貸付は8件実施した。							
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期計画期間4年目である元年度は、30年度に引き続き、第53回オープンレクチャーを実施することができた。2年度も同様に、当研究所の保有資産の有効利用を推進する予定である。							

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
<b>【年度計画】</b>								
(文化財研究所2施設)								
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。								
担当部課	研究支援推進部研究支援課	事業責任者	課長 菊本恵二					
<b>【実績・成果】</b>								
施設名		元年度						
平城宮跡資料館 講堂		77件	(内 有償貸与 4件)					
平城宮跡資料館 小講堂		111件	(内 有償貸与 4件)					
飛鳥資料館 講堂		21件	(内 有償貸与 0件)					
その他 (収蔵庫等)		15件	(内 有償貸与 11件)					
合計		224件	(内 有償貸与 19件)					
<b>【補足事項】</b>								
30年度実績								
施設名		30年度						
平城宮跡資料館 講堂		72件	(内 有償貸与 6件)					
平城宮跡資料館 小講堂		135件	(内 有償貸与 5件)					
飛鳥資料館 講堂		5件	(内 有償貸与 0件)					
その他 (仮庁舎・収蔵庫等)		20件	(内 有償貸与 17件)					
合計		232件	(内 有償貸与 28件)					
<b>【定量的評価】</b> 項目	元年度実績	目標値	評定	経年 変化	27	28	29	30
施設の有効利用件数	224件	-	-		256	296	347	232
うち有償利用件数	19件	-	-		43	52	35	28
<b>【年度計画に対する総合評価】</b> 評定：B	<b>【判定根拠、課題と対応】</b> ・講堂、小講堂が奈良県のイベント（天平祭）に使用されなくなる等して利用件数が減少したが、他の施設においては、貸与を積極的に行い、特に飛鳥資料館では前年度比4倍の増加となった。 ・2年度以降については、元年度の減少理由の改善案を検討し、利用者のニーズに沿った施設の有効利用の推進を本来業務の支障の無い範囲で実施する。							
<b>【中期計画記載事項】</b> (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
<b>【中期計画に対する評価】</b> 評定：B	<b>【判定根拠、課題と対応】</b> 元年度も引き続き、一般利用申し出に対する有効利用の推進等を行い、自己収入の増加を図った。今中期計画においても、本来業務に支障の無い範囲で実施しながら、前中期目標期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。							

【書式A】

施設名 本部事務局処理番号 7300

中項目	3. 決算情報・セグメント情報の充実等							
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等							
【年度計画】								
独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。								
担当部課	本部事務局財務課			事業責任者	課長 数馬厚人			
【実績・成果】								
30年度に引き続き、30年度決算（元年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（27年1月改訂）に従い、以下のとおり公表情報の充実を図った。								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。</li> <li>・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。</li> </ul>								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
-	-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】							
評価：B	計画どおり取組を実施している。							
【中期計画記載事項】								
機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。								
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】							
評価：B	計画どおり取組を実施している。							